

●平成15年度日本生理学会第2回常任幹事会議事速報

日 時：平成15年12月5日午後1時—5時

会 場：アルカディア市ヶ谷

出 席：青木 藩，福島菊郎，泉井 亮，城所良明，貴邑富久子，野村正彦，板東武彦，山岡貞夫，小西真人，佐久間康夫，本間生夫，御子柴克彦，宮崎俊一，宮下保司，岡田泰伸，久場健司，水村和枝，大森治紀，彼末一之，高木 都，前田信治，松井秀樹，今永一成，河南 洋，吉村 恵，久保義弘，奥村 哲（小泉 周代理），金子章道，栗原 敏，倉智嘉久，本間研一（次回大会長），本郷利憲（オブザーバー）

欠 席：丸山芳夫，岡野栄之，曾我部正博，西野仁雄，野間昭典，梶谷文彦，能勢 博，當瀬規嗣（次回大会長）

今回の常任幹事会では，報告事項と協議事項をまとめた形で議事進行が行われた。

会長挨拶

金子会長より，学術会議改組に伴う来年度からの大きな変化として科研費審査委員の選考方法が変更されることが報告された。従来は学会が推薦した候補者から科研費審査委員が選任されていたが，来年度からは日本学術振興会が主体となりプログラムオフィサーが審査委員を選ぶことになった。学会/日本学術会議の推薦は1つの資料として使われるが，その他の情報も利用される。続いて庶務報告が行われた。

財務報告

宮崎財務幹事から平成15年度会計の中間決算報告が行われた。また平成15年11月より動物実験に関する法律上の助言を受けるため顧問弁護士契約を締結し，それに伴う費用が計上されたことが報告された。中間報告は承認された。

編集報告

岡田編集・広報幹事から日本生理学雑誌およびホームページに関して報告が行われた。また，一般市民向けに学会ホームページの構成リニューアルを外注する提案がなされ，承認された。

JJP編集委員会報告

野間JJP編集委員長の代理として佐久間編集委員か

ら5月に行われた編集会議の報告が行われた。論文アクセスの電子化の一環として，国立情報学研究所が運営している日本版SPARCに採択され，今後情報を収集することが報告された。JJPにInvited Perspectivesを設け，特に魅力ある領域についてInvited Editorが原著論文を受け付けることが提案された。今後2年間はIntegrative Physiologyをテーマとし，特にDynamic ModelingとExerciseの2分野とすることが提案され，承認された。さらにJapanese Journal of Physiologyのインパクトファクタを上げるための努力を各人がしてほしいとの要請があった。

選挙管理委員会報告

小西選挙管理委員長から，平成16年度科研費審査委員候補者の選挙結果の報告があった。また来年は生理学会常任幹事の半数が改選になるとの説明があった。

生理科学研究連絡委員会報告

金子委員長（会長）より，平成17年度から変更となる科研費審査委員選考方法の説明があった。そこで，金子会長より選挙管理委員会の負担を軽くするため評議員による選挙のみにしてはどうかとの提案があり一応の合意を見たが，今後3幹事および選挙管理委員長によりさらに協議を行うことになった。

教育委員会報告

河南委員長から9月に行われた委員会の報告が行わ

れた。札幌の生理学会大会において、教育委員会主催のシンポジウムを行う。しかし学生発表の場を特に設けることはしないとのことであった。モデル講義については、継続審議となった。

学術・研究委員会報告

大森委員長から生理学会地方会において行った調査に基づき、生理学会英語化のスケジュール、年大会と地方会のあり方、学会の財政基盤強化について地方会からの意見が報告された。生理学会の年次大会登録料の値上げは慎重に行うべきであるという意見がだされた。若手に演題発表の機会を与える目的で、地方会におけるスポンサー制度が提案された。これは評議員がスポンサーになれば、生理学会会員でなくても地方会に演題発表できるというものである。これに対し、地方会の運営は基本的には各地方会に委ねられており、日誌への抄録の掲載も可能であるという編集・広報幹事の判断があるので、非会員の発表の機会も保証されており特にスポンサー制度を設ける必要はないとの結論に達した。

研究倫理委員会報告

坂東委員長より生理学会HPに掲載予定のアピールおよび「生理学領域における動物実験に関する基本指針」(日本語版、英語版)の改定案が提出され、若干の修正の上承認された。近々HPに掲載される予定である。

将来計画委員会報告

8月に行われた委員会の報告が高木委員長からあった。生理学を端的に表すキャッチフレーズとして「生命の理(ことわり)：からだのしくみをリアルタイムでときあかす」が提案され、承認された。キャッチフレーズの下に生理学についての簡潔な説明を付して、HPに掲載する。

若手の会報告

小泉幹事の代理として奥村氏より、札幌の生理学会のサテライトとして、若手の会が主体となってチューデントサイエンティストプログラムを実施することが報告された。

男女共同参画推進委員会報告

水村委員長から3月と7月に開催された委員会の報告があった。また本年8月から10月に行ったアンケート調査の回答/解析状況が報告された。

IUPS組織委員会報告

財務担当の栗原委員より、支援金の現状が報告された。目標額に達していないことから、今後のいっそうの支援が要請された。プログラム委員長の倉智委員より、IUPS2009の機会に日本の生理学史をプロのライターに書いてもらう企画がだされた。まず、日本生理学会の成立に寄与した人々をテーマとする。日本人研究者のアイデンティティを明らかにし、今後の発展に寄与するねらいであるとの説明があり、承認された。

第81回日本生理学会大会(札幌大会)準備状況の報告

青木当番幹事から、会期は2004年6月2日—4日、会場は札幌コンベンションセンターで行う準備が進められていることが報告された。

第82回以降の日本生理学会大会開催地について

会長から第82回大会(2005年、平成17年)は5月21日—23日まで仙台(当番幹事、丹治 順、丸山芳夫)、第83回大会(2006年、平成18年)は未定、第84回大会(2007年、平成19年)は大阪(大阪大学が当番を務める)、第85回大会(2008年、平成20年)は東京(当番幹事、佐久間康夫)で予定されていることが報告された。